



自転車に乗れるように

中3は最後の総体が終わりました。悔し涙を流した人もいます。しょうが、その頑張りは後輩たちに引き継がれていくことでしょう。

さて前期の期末テストを前に、中学生で数学が苦手な人の理由を考えてみました。その一つは数についての感覚が身に付いていないことです。そういう機会がなく、興味も持てないままになっていたのかもしれませんが。2をかけた数の暗算、例えば36の2倍は72ということが瞬時に分からないと平方根の計算に手間取ります。もちろん2乗した数がパッと出てきて、できれば11から15の2乗くらいまでは暗記しておくとう便利です。10倍100倍の数、25の倍数、小数と分数の使いこなしもできていなければいけません。よく見かけるのが理科の計算問題などで $0.5 \times 0.5 = 2.5$ としてしまう間違い。冷静に考えれば半分の半分は4分の1にしかありません。2倍半になるわけではないのに小数第1位だけで考えています。なかには引き算でミスる人もいます。繰り下がり計算は上の位から10を借りてきてという減加法で習ったと思いますが、補数の考えを身に付けばより簡単です。15-6は引く数との差が1なので答えは自動的に9、7を引いたら差が2なので答えは8。当たり前に行っている人もいます。しょうが、考えてではなく一度自転車の乗り方を覚えたら体が自然に動くように誰もができてほしいことです。

逆に自分から自信を無くす方向に持っていく人もいます。中3にいつも話しているのは高校入試の数学の問題で正答率10%未満の問題が毎年必ず2~3問あることです。それなのに「入試問題になると解けない。自信がなくなった。」と思うのは早計。難問と言われている問題は“質問の文章をきちんと理解できていて”“着眼点と解法の道筋が見えていて”“複数の公式をすべて使いこなせて”はじめて正解にたどりつくようになっています。それができないからといって苦手意識を持つ必要はありません。それよりも易しい問題から順に速く正確に時間内に解くことが大切です。

入試までの残り半年はその見きわめの練習のときでもあります！